

母親からみた2歳児の特徴と自分の子育て — 1年たって当時にふりかえる —

研究第8部 星 美智子
特別研究員 内藤 寿七郎

要約

2歳児は精神発達が質的に飛躍する時期として探索行動、対人関係、情緒等にその発現をみることができる。そしてこれらは家庭や保育所においても養育上の扱いにくさや悩みになっていることが多い。2歳児の特性を観察し、保育に役立つ基礎研究を行うことを目的に、これまで2歳児のグループ活動における行動特徴、笑いの分析、紙芝居の理解、母親の育児不安などの研究をすすめてきた。今年度は、2歳児をもつ母親の育児上の問題が、1年後、つまりその子が3歳になって母親が1年前をふり返ったとき、どのように思うかの調査を通して、2歳児の特徴と母親の育児不安について考察した。対象は本研究所育児講座に参加した2歳児とその母親134組である。手続きは、講座の初回に「育児上気になること」を記入したアンケートを母親自身が見ながら再度アンケートに答える方法とした。調査結果を(1)2歳児と3歳児の育児上の悩みの比較、(2)2歳時から3歳時への育児上の悩みの個人別変化、(3)2歳当時の育児を1年後にふり返って母親自身の評価、以上3点から考察した。なお、本研究は、2歳児研究グループ清水玲子、植村規代、小林千鶴子との共同研究である。

見出し語：2歳児、育児不安、追跡調査、母の自己評価

Mothers' view of two-year-old infants and their ways of bringing-up
----- Looking back on the year just past -----

Jushichiro NAITO
Michiko HOSHI

Two-year-old children make a remarkable progress in the development of orienting, inter-personal and emotional behaviors. In many cases, however, this progress is felt as a new difficulty in rearing infants by mothers and nurses.

We have been engaged in the studies of two-year-old infants: their behavioral characteristics in group activities, analysis of their laughing, their understanding of picture story shows and the rearing anxiety of mothers, with the purpose of establishing a basic research for scientific nursing.

This year, intending to investigate the anxiety of mothers caring two-year-old infants, we have asked the subjects, mothers of three-year-old infants, to look back on their worries about child-rearing in the previous year and point out changes in their attitudes toward children. We also required them to evaluate themselves of their ways of bringing-up during this period.

Key words: two-year-old infants, rearing anxiety, follow-up investigation, self evaluation of mothers

I 目的

これまで、「2歳児のための育児講座」を通して2歳児の行動観察を行ない、その発達的特徴について考察してきた。(当研究所紀要16集及び17集、22集参照)また、子どもたちの保育と併行して母親たちの行なってきた講座(講師による講義、育児相談 テーマごとの母親同士の話し合いなど)を通して、扱いにくくなるとも言われる2歳児の育児上の悩み、不安について、更に講座に参加するなかでの母親の変化についても報告してきている。(当研究所紀要19集)本研究は、それらの報告をふまえたうえで、育児講座に参加した母親たちが、1年後、つまり当時2歳だった子どもが3歳になってから1年前をふり返ってどのように感じるか、についての調査を行ない2歳児の特性と母親の育児上の悩み、不安について考察する。

II 方法

<対象>

対象は、当研究所における「2歳児のための育児講座」に参加した2歳児とその母親 134組である。(育児講座は、週1回、午前中1時間半ずつ行なう。子どもの保育と母親たちの講座は、広いひと部屋をアコーディオンカーテンで区切って同時に行ない、子どもは1/4ほど開けたままにしてあるカーテンを行ったり来たりできるようにしてある。9回で1グループが終了する。1グループの組数は15~20組である。)なお、全対象児のうち、115名は第1子であり、その詳細は表1の通りである。

表1 第1子(115名(85.8%))のうちわけ (%)

N=134	ひとりっ子	弟妹あり
核家族	59(44.0)	39(29.1)
複合家族	10(7.5)	7(5.2)

<手続き>

①育児講座の初回に、母親に対して育児上気になることを中心としたアンケートを行なう。②育児講座の期間

中、子どもを観察するとともに、母親と随時話し合い、育児の相談を受ける。③育児講座終了後、約1年ほど経過した時点で、子どもが2歳のとき記入してもらったアンケートを同封して郵送し、再度アンケートを行なう。アンケートの内容は、2歳のときと同じ項目に、1年前をふり返って当時の育児についてどんな感想をもつかという質問を加えたものである。

<期間> 1987年~1990年

III 結果

調査結果を、次の3点からみていきたい。

1. 2歳児と3歳児の育児上の悩みの比較

表2はアンケートの結果を、年齢によって母親の悩みがどう違うか、という点から整理したものである。子どもの発達や生活については、食事、排泄、友だちに関する悩みが多い。またことばや運動を含めどの項目も2歳より3歳で減少しているが、特に排泄と友だちがいない、という悩みの減少が大きい。悩みの内容については、睡眠では「寝る時刻が遅い」「寝起きが悪い」など生活リズムが確立していない問題や、「抱っこで昼寝をしている」といった2歳のときの問題が、3歳では解決できており、排泄については、「オムツがとれない」「教えない」などの2歳のときの悩みは3歳になるとほとんどなくなり、かわって夜のオムツや夜尿のことがでてくる、というように変化している。

2. 2歳から3歳への育児上の個人別変化

次に、2歳のときの悩みが1年後にはどのように変化しているか、個人別変化を整理してみた。表3では、項目ごとに2歳で心配だったことが3歳で心配なくなるケース、2歳で心配だったことが3歳になってもやはり心配であるケース、2歳では心配なかったが3歳では心配がでてきたケース、どちらも心配なしのケースと、変化を4種類に分類したときのケースの数を示した。内容についてはアンケートの項目ごとにみていく。

(1) 母親との関係

表2 発達・生活についての心配とその変化

N=134 (100.0)	心配あり		心配なし	同一人物での心配の変化		
	2歳	3歳		心配なくなる	心配になる	心配あり
1 身体発達について	9 (6.7)	5 (3.7)	122 (91.0)	7 (5.2)	3 (2.2)	2 (1.5)
2 運動発達について	10 (7.5)	5 (3.7)	121 (90.3)	7 (5.2)	2 (1.5)	3 (2.2)
3 言語発達について	18(13.4)	9 (6.7)	112 (83.6)	12 (9.0)	5 (3.7)	4 (3.0)
4 食事について	46(34.3)	31(23.1)	77 (57.5)	29 (21.6)	10 (7.5)	18 (13.4)
5 睡眠について	15(11.2)	7 (5.2)	114 (85.1)	12 (9.0)	3 (2.2)	3 (2.2)
6 排泄について	51(38.1)	22(16.4)	72 (53.7)	37 (27.6)	9 (6.7)	14 (10.4)
7 友だちがいない	36(26.9)	9 (6.7)				

「母親からわが子が離れない」という心配は、2歳から3歳になって減少するが、「甘える」という心配は逆に増えている。その内容は、2歳では依存的な姿が主であるが、3歳になると、わがままや反抗、下の子の真似といった姿がみられるようになっていく。

(2) 家族との関係

特徴的なのは、「祖父母が甘やかすので困る」という悩みが、2歳にはあるが3歳になると消えてしまうことである。また、弟や妹との関係では、2歳より3歳のときの方が、いじめたりすることでの悩みは増えている。父親との関係では、父親に甘えて、父親が甘やかすことへの悩みと、反対に接することが少なく、父親をいやがるという悩みが出ており、3歳になって全体の悩みの数としては減るが、やはり、この両方が出ている。

(3) 友達との関係

友達との関係は、2歳でも3歳でも心配ありの数の比較的多い項目であるが、その内容は違っている。最も大きな変化は「おもちゃの貸し借りがうまくできない」という悩みが2歳では多く、3歳でほとんどなくなることである。また、2歳では、「友だちがいない」「慣れにくい」などが目立つが、「じょうずに遊べない」「なかよく遊べない」といった悩みは3歳でも多くみられる。

(4) ききわけについて

「アイスクリームなどのお菓子がほしい」「テレビがみたい」など、ものをほしがってききわけができない、思いどおりにならないと大声で泣く、などがあるが、2歳と3歳で内容的に特徴的な変化はみられない。

(5) こだわりについて

2歳と3歳とでこだわっている人数はほとんどかわらないが、「衣服、くつなどへのこだわり」は3歳の方が多く、そのなかには「服の着方へのこだわり」（きちんと着たがる）などもみられた。また、ものごとの順序や場所などが常に一定であることへのこだわりや手離せないものがあるなどは、2歳の方が多く傾向が見られた。

(6) おびえることについて

おびえることは、2歳から3歳にかけて、増える傾向にあるが、何におびえるか、については、共通しているもの（虫、音、暗いところなど）と、生活経験を通して恐くなくなっていくもの（たとえば天井の配線器具、風呂のあわ、5時のチャイムなど）逆に理解力ができると恐くなるもの、（テレビのストーリー、おこられること、友だちのこわがる様子を見て、など）とがあるが、この結果からは数としてはそうした変化はみられない。

(7) 落ち着きについて

2歳では、「あきつぱい、ひとつのことに集中して遊べ

ない」という悩みが多く、3歳になると「食事中落ち着きがない」「人の話をちゃんと聞けない」「大ぜいのひとの中でじっとしてられない」という悩みに変化してくる傾向がみられる。

(8) 苛だちについて

2歳での苛だちは、たとえば「おもちゃの組立がうまく出来ない」「ボタンがはめられない」「くつ下がなかなかはけない」「あそびを弟や妹にじゃまされる」といった場面でみられ、「苛だつてものをなげたりする」ので困るという回答もいくつかみられる。3歳でも、うまくいかないとカンシャクをおこしたりする姿は見られ、顕著な変化は見い出せないが、2歳のときには出てこないで3歳になるとみられる姿として、何かに取り組んで出来ないとき、大人の励ましやアドバイスでがんばったり、無理そうなときに言葉で出来ない、と言ったり、ということがある。

(9) その他・気がかりなことについて

自由記述のため、内容は多岐にわたっている。最も多いのは、子どもの態度についての心配であり、「わがままや言うことを聞かない」「積極性に欠ける」など、2歳32件、3歳も32件である。次に多いのは「排泄」「食事」「睡眠」などについての心配で2歳27件、3歳22件、さらに、「友だち関係」では2歳20件、3歳18件、「母親自身の態度」については2歳4件、3歳19件などが挙げられる。

表3 人間関係・行動についての心配の変化 (%)

N=134	同一人物での心配の変化			
	心配なし	心配なくなる	心配になる	心配あり
母親との関係	47 (35.1)	27 (20.1)	24 (17.9)	36 (26.9)
家族との関係	66 (49.3)	37 (27.6)	18 (13.4)	13 (9.7)
友だちとの関係	32 (23.9)	51 (38.1)	9 (6.7)	42 (31.3)
ききわけがない	55 (41.1)	35 (26.1)	14 (10.4)	30 (22.4)
こだわりが強い	73 (54.5)	18 (13.4)	20 (14.9)	23 (17.2)
苛立つ	45 (33.6)	48 (35.8)	29 (21.6)	12 (9.0)
おびえる	61 (45.5)	27 (20.2)	16 (11.9)	30 (22.4)
おちつきがない	84 (62.7)	18 (13.4)	11 (8.2)	21 (15.7)

3. 2歳当時の育児を1年後にふり返つての母親の感想

1年前に自分が書いたアンケートを見ながら当時を思い出して述べた感想は、大きく分けて2種類に分類できる。ひとつは、子どもの成長に関してであり、「2歳の頃より活発になり、活動範囲が広がった」「友だち関係ができた」「おむつがとれた」など、1年前と比較して成長した子どもの姿を確認している。もうひとつは、母親自身についての感想であり、表4に示すように、「当時の自分がピリピリしていた」という反省や、「当時心配していた頃が借られない、なつかしい」という感想などである。

表5 友だちとの関係 (個人別の変化)

	(2歳) 心配あり		(3歳) 心配あり
A子	友だちにおもちゃを貸せない、人のものはとる	→	仲間はずれにされる
B男	物でぶつまねをする、友だちをける	→	一番になりたがる
C男	わがままで一緒に遊べない	→	うまく遊べないと母親を呼ぶ
	(2歳) 心配あり		(3歳) 心配なし
D男	友だちと遊ぼうとしない	→	友だちとなかよく遊べる
E子	友だちのおもちゃを欲しがる、かみつく	→	友だちとあきずにごっこ遊びをする
F男	友だちにおもちゃをとられる一方	→	気の合う子とはよく遊ぶ
	(2歳) 心配なし		(3歳) 心配あり
G子	とくに心配なし	→	年上の男の子をいやがる。女の子としか遊ばない
H子	よく遊ぶ	→	知らない子に気おくれする
I男	とくに心配なし	→	できない遊び(ルールなど)に入らない

IV 考察

次の2点から考察していきたい。

1. 育児上の悩みの変化について

子どもが2歳のときの育児上の悩みは、1人ずつ追っていくと、3歳の時点では変化していることが多い。その変化は、成長・発達に伴って解決される問題(たとえばオムツがとれない、おっぱいをほしがる、タオルなどいつも離せないものがある、など)の場合には、1年後には心配なしという回答となつてあらわれるが、3歳の時点で引き続き心配であると記された場合でも、その内容は違つているという形であらわれているのである。(たとえば、3歳になると夜尿の悩みがでてくる、とか、2歳では他の子と遊ぶときおもちゃをとる、かみつくなどといった行動が多くの母親の悩みであるのに対し、3歳ではそうした悩みはほとんど消え、かわりに友だちとうまくかかわれないことが悩みになってきている。(表5参照)など) これらを通して、発達に従つてあらわれる子どもの行動特徴が、それ以前の悩みを解消すると

もに新たな育児上の悩みになっていくこと、それは、また母親側が、子どもの発達に伴つて新たな要求を出しているがゆえの悩みでもあることが確認できたと思われる。

2. 当時の母親自身の育児をふり返ることについて

本調査は、1年前に自分自身で記入したアンケートを見ながら再度同様の質問に答えてもらったところにその特徴がある。自分が記入したそのものを1年経つて読むことで、当時の思いが鮮明によみがえり、そこから当時の育児態度の反省や子どもの発達の道すじへの理解もより可能になっているように思われる。

V 結び

3歳児の母親の子育ても、長い子育ての道のりから見ればまだ始まつたばかりであり、回答にもみられるように現在の問題、悩みに必死であるのも当然であろうが、1年前をふり返ることによつて、2歳の頃の発達の姿にふりまわされた当時の育児を思い出し、今の悩みも子どもの成長の過程での姿としてとらえ直すきっかけになり得るのではないかと考える。

最後に、多くを学ばせて頂きました育児講座のお母様方、お子さんたちに感謝いたします。

表4. 母親自身の子育てをふりかえる

・当時神経質、ささいな心配、気負つて育児、いら立つていた、ムキになつて排泄のしつけ無駄であつた。	14
・2歳児特有のものを心配していた。今思えば当然。	5
・当時の心配が信じられない、不思議、なつかしい。	8
・1年間の子どもの成長をしみじみ思う。	14
・母自身の未熟さを知る。子育て見直した。	2
・母子ともに成長した。	1
・あるがままうけいれ、ゆとりもつて育てていきたい。	4
・育児を通して母自身を育てていきたい。	1
・昨年と同じなやみは今後の課題と思う。	1
・いまも自分の子を客観視するむずかしさ感ずる。	1
・基本的な問題同じ、早い時期に性格ができると思う。	1
・3歳になり幼稚園ひかえ不安、短所気になる。	3
・きびしすぎたので子どもが小さくまとまる。	1
・性格がはつきりし、器ができ、つきあい易い楽しい。	2
・いま一番かわい時期と思う。	1
・2歳のときは思つたことを話せず、つらかつたろう。	1

<参考文献>

- 1) 星 美智子、清水 玲子、植村 規代、小林 千鶴子：2歳児の行動特徴 日本総合愛育研究所紀要16集(1980年)
- 2) 星 美智子、清水 玲子、植村 規代、小林 千鶴子：2歳児の行動特徴に関する研究(2) - 笑いの観察を通して - 日本総合愛育研究所紀要17集(1981年)
- 3) 清水 玲子、星 美智子、植村 規代、小林 千鶴子：2歳児の行動特徴 - グループ活動を通して - 日本保育学会第35回大会(1982年)
- 4) 星 美智子、清水 玲子、植村 規代、小林 千鶴子：2歳児をもつ母親の育児不安 - 2歳男児育児講座を通して - 日本総合愛育研究所紀要19集(1983年)
- 5) 星 美智子：2歳児の興味と理解 - 紙芝居を通して - 日本総合愛育研究所紀要22集(1986年)
- 6) 内藤 寿七郎、星 美智子、小林 千鶴子、清水 玲子、植村 規代：2歳児の特徴と母親の育児不安 - 1年たつて当時をふりかえる - 日本保育学会第42回大会(1989年)